

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年07月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202081
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ 大空
所在地 (電話番号)	静岡市葵区古庄 3-23-1 電話 054-263-7101
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年7月5日

【情報提供票より】(平成19年06月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 9.7 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(平成19年06月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	57 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	望月クリニック、さそう内科・呼吸器科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(株)日本ケアクオリティが運営する10箇所のホームの一つで、静かな住宅街にゆったりとした居住空間、畑や庭を持つホームである。ホーム長のリーダーシップの基、職員間の連携も良く、各ユニット主体に日々のケアに取り組んでいる。利用者の状況を毎月の定期通信で伝え、サービス担当者会議に家族の参加もあり、介護計画も毎月のモニタリングで見直しを行っている。日々のホーム運営や介護の実践は的確に行われているので、地域密着のホーム独自の運営理念の再構築や、職員の研修の仕組み、終末期対応の基本指針、地域との積極的な交流等の取組が望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の調査に当たり、自己評価表は職員と1F・2Fのフロアリーダーが検討したものを、ホーム長との話し合いで作成された。自己評価・外部評価ともに、その結果をホームの改善に結び付けようとする意気込みが感じられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、過去2回開催され、次回の開催も決まっている。会議では、好いことばかりの報告ではなく、問題点や協力依頼も率直になされており、そこでの意見をサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。市町村との関係については、書類を届ける場合も窓口足を運び、その連携に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情受付窓口が明記されている。家族等の要望については、サービス担当者会議・運営推進委員会でも取り上げられ、それらを運営に反映させている。</p> <p>家族への連絡は、非常にこまめに行われており、個人別の手紙・写真・近況報告・出納状況等により、多くの家族から安心され、喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の会員にはなっているが、会合には参加していない。非常災害・徘徊等地域の手助けが必要な局面が多々あるので、自治会・老人会等に実際に参加することにより、地域の人達との生の触れ合いの中から、より良い連携関係を築いていきたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に、ホーム長が中心になり皆で決めたものであるが、介護保険が求める地域密着型の新しいニーズに沿ったものであるかどうか、再検討が求められる。	○	時代や職員も変わり、新しく「地域住民との交流」が求められている現在、それに相応しい理念の再構築をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今ある理念「大空の日ざしの中、笑顔があふれるあたたかな家」も、それなりに優れたものであり、それを玄関や各フロアに掲示し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の側溝の掃除・夏祭り・ふれあいの集い等には参加し、町内会の会員にはなっているが、会合には参加していない。	○	非常災害・徘徊等地域の手助けが必要な局面が多々あります。自治会・老人会等に参加することにより、地域の人達との生の触れ合いの中から、より良い連携関係を築いて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、1F・2Fのフロアリーダーが中心になり、職員と検討したものをホーム長との話し合いで作成された。自己評価・外部評価ともに、その結果をホームの改善に結び付けようとする意気込みが感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、過去2回開催され、次の開催も決まっている。会議では、好いことばかりの報告ではなく、問題点や協力依頼も率直になされており、そこでの意見をサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも、必要な書類は郵送ではなく必ず足を運んで届け、担当窓口との接触に努め、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への連絡は、非常にこまめに行われており、個人別の手紙・写真・近況報告・出納状況等により、多くの家族から安心され、喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口が明記されている。家族等の要望については、サービス担当者会議・運営推進委員会でも取り上げられ、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームに相応しい職員の採用に努め、悩みに耳を傾け、今は職員が安定し落ち着いている。異動や退職の場合は、素早くフロアリーダーから担当者に引継ぎを行い、ダメージを最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に不慣れな職員や男性職員も比較的多く、レベルに応じた研修計画は作成されていない。	○	職員のレベルが、利用者や家族の満足度を左右することとは否めない。外部への研修参加や内部でのOJT研修・伝達研修等、年間の研修計画を策定されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内での交流は行われているが、地域の同業者との交流は行われていない。	○	地域での同業者とのネットワークを作り、勉強会や相互訪問を行い、お互いに切磋琢磨する場作りを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	バックグラウンドアセスメントシートを活用し、本人の生活歴と入所当初の様子を観察し、家族とも相談しながら、なじみの関係作りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴の中から、得意な分野を見つけ出し、それを助長し、学びながら支え合う関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。サービス担当者会議や毎月のモニタリングの実施、居室や食事の時のなげない会話からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に、各入居者担当の職員がモニタリングを月一回行い、ユニット会議で意見を出し合い介護計画を作成している。家族にもサービス担当者会議に出席して頂き意見、要望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各居室担当職員が中心になって、3ヶ月に1度の介護計画の見直しを行っており、毎月のユニット会議、モニタリングにて状況変化を確認し、変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援や、家族との食事や外泊、外出などの支援を行っているが、ホームの持つ独自の機能を、十分に生かしているとはいえない。	○	ホームの持っている認知症対応の様々な機能を、利用者やその家族、地域の住民などへ提供できるホーム独自のサービス確立への取組を願いたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にホームの提携医利用か、利用前からのかかりつけ医での医療かを確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。ホーム提携医の週2回の往診や家族の協力を得ながらの通院介助など、複数の医療機関と密接な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人・家族の希望や医師のアドバイスを基にユニット会議で対応を話し合っているが、基本方針やマニュアルは整備されていない。	○	入居契約時から本人、家族の希望確認や、重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての基本指針の確立や、文書化、全職員で方針を共有する仕組み作りを取組願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議で対応についての話し合いを行い、利用者への声かけや対応は、一人ひとりの状況に合わせて、さりげなく行われている。外部の会議では利用者の名前を伏せたり、写真の了解等も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや職員側の優先とならないよう気をつけ、職員が全体の一日のリズムを作り、入浴対応や食事から排泄まで、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者にも聞き、季節の食材を取り入れている。また、配膳準備、片付け等も利用者とともにいき、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞き、職員同士が声を掛け合い、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の要望、日常の何気ない対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、畑作業、配膳、食器片付け、洗濯物干しや取り込み、掃除や趣味の大正琴演奏などの活躍の場を提供している。当日は、見事な大正琴の演奏を一緒に聞かせて頂いた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、ウッドデッキでの日光浴、散歩、買い物やドライブ等に出かけている。ホーム内に外出・レクリエーション係りを置き、外出の機会を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害はユニット会議で常に話し合い、一部危険を伴う2F入口の鍵を除き、鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て消火、避難訓練を定期的に行っているが、地域の人達との連携は十分とはいえない。	○	運営推進会議を通じて、防災訓練や災害時の夜間協力依頼を行うなど、地域の人達との輪をより大きくする活動に取り組んでほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調により食事の量を調整し、摂取状況を毎日チェック表に記録しているが、食事全体のバランスやカロリー計算は、行われていない。	○	定期的に管理栄養士による栄養バランス、カロリー摂取量の確認や、日々の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としており、居室や廊下・居間への段差も無く、要所への手すり取り付け等高齢者への配慮がなされている。また、畳敷きのフロアも有り、オープンキッチンからの調理の匂いがするなど、家庭的な雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者がこれまで使っていた筆筒、写真、持ち物や装飾品が持ち込まれていて、過ごしやすい場所作りがなされているが、一部に殺風景な居室が見られた。	○	一部身寄りのない入居者の居室は持ち込み品が少なかったため、入居者の生活歴や居室担当者の意見から、装飾品などを取り入れる工夫を願いたい。